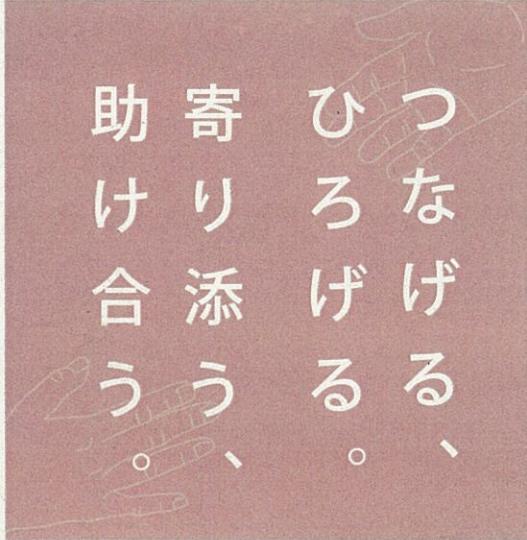
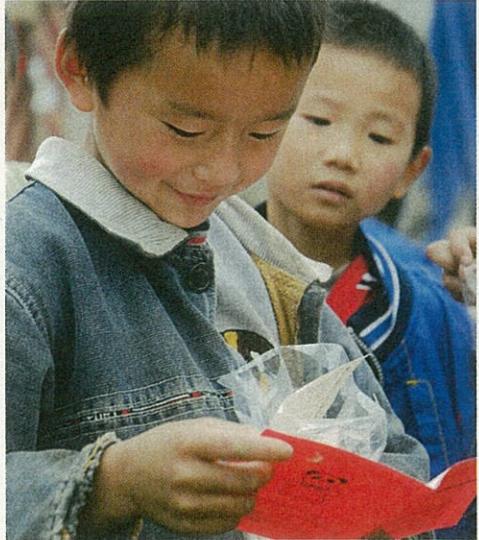


災害復興を支援し合うしくみを、
静岡県からつくっていきます。

ふじのくに国際災害ボランティア支援ネットワーク



特定非営利活動法人
静岡県ボランティア協会



2008年5月に中国・四川省を震源とする大地震が発生し、一瞬にして多くの尊い命と生活が奪われました。ふじのくに国際災害ボランティア支援ネットワークは、被災地にテントを送る「四川省大地震被災地ヘンテントを贈る運動」がきっかけとなり発足しました。



私たちのために みんなのために

ふじのくに国際災害ボランティア支援ネットワークは、わたしたちの日常生活を突然襲う大規模災害に備え、安全・安心な地域社会づくりへの貢献を目的として活動しています。日本国内の遠隔地およびアジア近隣諸国において大規模災害が発生した際に静岡県から円滑な支援活動を実施するほか、東海地震などの大規模災害発生時に静岡県内の被災地に向けられた支援を受け入れる体制の構築なども視野に入れた広域連携を具現化します。

災害前から顔の見える 絆づくり

静岡県ボランティア協会と静岡県は、平常時から静岡県内外の災害ボランティア関係者との情報交換や、地図を用いて防災対策を検討する図上訓練などを繰り返し行つてきました。この図上訓練には、県内外から190を超える団体が参加しています。

当ネットワークは、「災害時に取り残される地域をつくらない」ために、そこで培われた全国の災害ボランティアとの「顔の見える」つながりを活かしながら災害時には互いに協力し合い、迅速に救援活動に取り組む広域連携のしくみを整えていきます。

ネットワーク機能の向上

円滑な支援を広域で展開するため国内外で活動する災害ボランティア活動支援団体をカウンターパートとして選定し、相互協力体制の可能性を検討しています。カウンターパートを拡充し、具体的な情報交換を通じて互いのネットワークおよび専門分野を共有することでより広い範囲で支え合うしくみを構築します。

活動の3つの柱

- ・アジア近隣諸国および県外に向けた大規模災害発生時の速やかな支援
- ・災害時に富士山静岡空港を活用して速やかに支援ができる環境の整備
- ・東海地震など、本県における大規模災害発生時に備えた円滑な支援

常任委員会の設置

当ネットワークは、円滑な運営のために学識経験者、ボランティア関係者、公益法人関係者、行政関係者などによって構成される常任委員会を設置しています。この委員会は、当ネットワークのあり方、災害ボランティア活動支援団体の拡充など、活動推進に必要な事項を検討していきます。また、行政に頼らない自立的な支援・受援の方策についても検討します。

富士山静岡空港

空港、航空会社等との調整

静岡県

連携

ふじのくに国際災害
ボランティア
支援ネットワーク
事務局

静岡県民

- ・海外カウンターパートの開拓
- ・発災時の支援
- ・情報交換など
- ・訓練参加など

アジア近隣諸国

- ・支援団体の育成支援
- ・情報交換
- ・発災時の支援
- ・訓練参加など

県内災害ボランティア関連団体

富士山静岡空港

静岡県

2 支援の必要性を検討

状況に応じ先遣隊派遣

3 支援の有無、方針を決定

ふじのくに国際災害ボランティア支援ネットワーク本部の設置

4 県内外で支援募金を開始

支援活動資金の捻出

7 支援内容の決定

8 富士山静岡空港の活用

富士山静岡空港に本部の空港事務所を設置

9 ボランティア派遣の開始

国内
(国内遠隔地)

派遣

先遣隊が現地情報を報告

支援

被災地

1 災害発生(静岡県からは遠隔地)

5 被災県・市町村の社会福祉協議会

災害ボランティア本部の設置、運営
ボランティア受け入れ体制の整備

6 現地派遣者の業務

ボランティア受け入れ体制の整備
輸送手段の確保

10 被災地へのボランティア派遣をはじめとする支援活動



国外支援の場合には、国内と同様に、カウンター・パート(現地受け入れ担当機関)や在京の国際災害支援NGOとの連携、情報交換、ニーズの把握を行い、国内向けの手順に加え、支援金・支援物資、人の通関や輸送の諸手続き、訳の確保などを調整して支援活動を推進します。

国内支援の場合には、事前に確立した連絡体制を通じて被災地情報を収集し、たうえで支援の有無を検討し、支援と判断されれば直ちに支援本部を設置します。先遣隊を派遣して支援内容を調整するとともに、被災地への輸送手段確保のために、航空会社や空港との調整を行います。並行して、県内外に支援を呼びかけ、人的・物的支援隊を編成しながら、活動資機材を確保して輸送します。

ふじのくに国際災害ボランティア支援ネットワークは、富士山静岡空港を拠点とした国内外への支援システムの構築に取り組んでいます。大規模災害が国内外で発生したことを想定し、支援活動の手順を明らかにするためにシミュレーションを重ね、作業手順の確認や課題の整理を試みています。

富士山静岡空港を活用した災害時の支援

被災地

1 災害発生(主にアジア近隣諸国)

例) 地震・津波・大規模洪水など

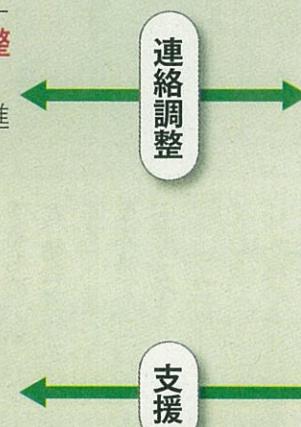
3 国内外のカウンターパートとの連絡調整

- 必要に応じて先遣隊を派遣し
カウンターパートとの連携・協力を推進
- カウンターパートとの調整
 - 現地宿泊・移動手段の確保
 - 航空便の確保
 - 通訳等の手配



海外

(アジア近隣諸国)



静岡県

2 支援の必要性を検討

- 相手方のニーズ把握
- カウンターパートとの連携、情報交換
- 支援内容(支援先・物・金・人)の検討

4 支援の有無、方針を決定

5 県内外で支援募金を開始

6 支援内容の決定

7 富士山静岡空港の活用

必要に応じて空港事務所を設置

8 ボランティア派遣の開始

派遣調整

いざという時に動ける活動を

駿河・南海トラフ巨大地震という大災害時には、陸路が閉ざされ静岡県の中部地域は孤立するとも考えられる。その場合、富士山静岡空港の活用を幅広く考えておく必要がある。飛行機が増便されることもあるだろうし、空港は物流の拠点になることも考えられる。

局所的な大洪水、大型台風の襲来、大規模地震の発生など災害はどのような形で発生するかはわからない。いざという時に備え、支援していく体制を常設できていると動きやすい。この支援ネットワークが、得意とする分野でいざという時に動ける活動になることを期待している。

世界中で災害が増えている。支援の仕組みづくりをしっかりとと考えていかなければならぬ。それには危機意識、防災意識が高い県である、静岡県からまず発信していくことが大事だと思う。国際災害ボランティア支援ネットワークは、空港をいかに活用できるかということが重要になる。実際に東日本大震災の発災後、富士山静岡空港から花巻空港に向け臨時便が飛んだ実績があり、その飛行機には行政関係者に加えボランティアも一緒に乗った。



栗田暢之さん

特定非営利活動法人レスキューストックヤード代表理事
震災がつなぐ全国ネットワーク代表
東日本大震災支援全国ネットワーク(JCN)代表世話人

ふじのくに
国際災害ボランティア支援ネットワークが
めざすものは…

静岡発「災害時、互いに支え合う仕組みづくり』
そのためには、

- 静岡発「災害時、互いに支え合う仕組み」を平常時からつくります。
 - 多くの方へ協力を呼びかけることで、「一人ひとりの負担は限りなく小さく、しかし大きな支援につなげます。
 - 静岡県民、行政、企業、団体、学校、地域、NPOなど幅広い層の参加と協力を得て、静岡県の県民運動として推進します。
 - 国内の遠隔地や海外（主にはアジア諸国）を応援する活動に育てます。
 - 大規模災害時には、富士山静岡空港を活用します。
 - 國際災害ボランティア支援ネットワーク活動基金（仮）を創ります。
 - この基金は、同ネットワーク常任委員会の判断のもと大規模災害発生時には、初動資金を取り崩し支援活動を開始します。

国際災害ボランティア支援ネットワーク活動基金(仮)の
財源づくりにご理解、ご協力をお願いします。

- 街頭での募金の呼びかけ

県民の皆さんに知つていただく機会として街頭での募金を呼びかけます。

学校や職場などで「ワンコイン募金」の呼びかけ

(主に1月～3月) 学校や職場など人が集まる場で、「ワンコイン(100円)募金の呼びかけをお願いします。特に1月～3月は「国際災害ボランティア支援キャンペーん」として広範囲に協力を呼びかけ、この趣旨にて賛同いただきます。

【募金目標】賛同者1万人を目指します。ご協力いただいた学校や職場には、後日募金報告をいたします。

● 地域募金の取り組み

自治会・町内会連合会等にご協力ををお願いし「国際災害ボランティア支援ネットワーク活動基金」への募金協力ををお願いすることも考えて いきます。

【募金目標】1世帯100円×賛同者5万世帯を目指します。

● 寄付金付き商品の販売

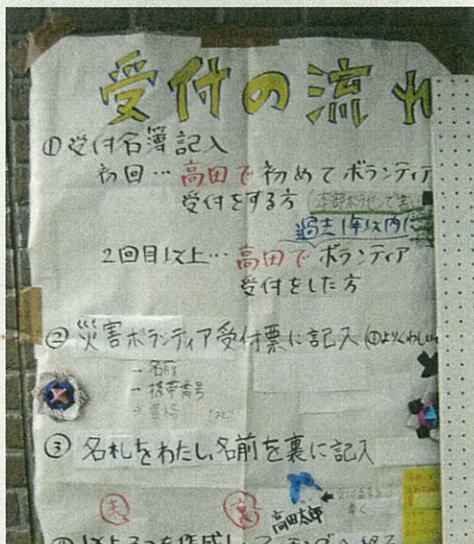
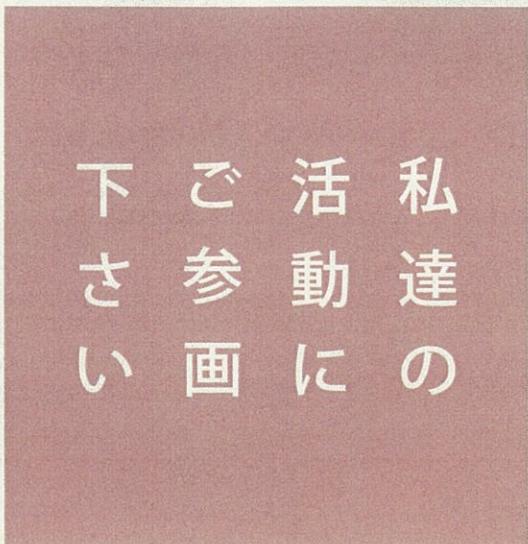
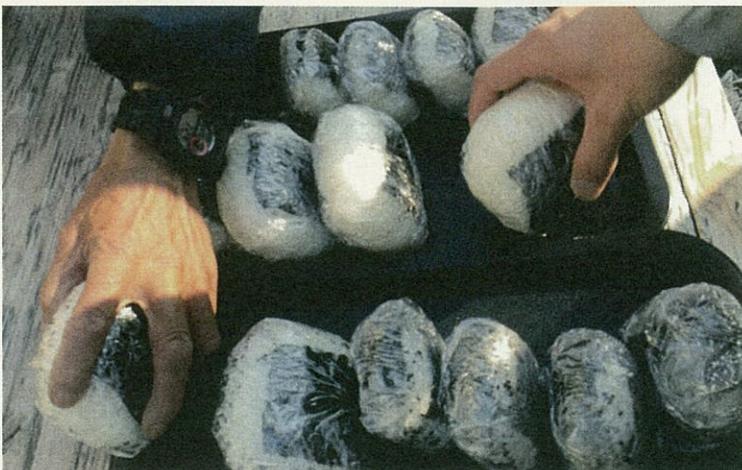
(一例)『ボラ協の静ボラ・夏ボラ』シャツの販売「ボラ協では、「がんばろう! -SHIZUOKA まけないぞう日本Tシャツ2014」の作成を検討します。1着につき300円程の寄付金付き商品とします。第1弾として1000着程度を作成することを計画します。

日本は、地震体験国です。大きな地震に遭つた被災体験をアジアの国々に伝えて国際貢献していく役割があります。国際災害ボランティア支援ネットワークは、いざという時に備え、資材の備蓄、医療機材の輸送、税関の問題、制度上で起ころる様々な課題を瞬時にクリアし、動ける体制を作つていくことが大切です。そして、災害時に使いやすい空港づくりを併せて考えていくことが求められます。活動を進める上では、お金がかかります。より多くの人に応援していただくためにも信用していただける団体でなく



山崎 美貴子さん

東京ボランティア・市民活動センター長
東日本大震災支援全国ネットワーク(JCN)代表世話
「広がれボランティアの輪」連絡会議会長



活動参画・支援のお誘い

小さな取組みが命を救う大きな支援に繋がります。被災地域の気持ちに寄り添う支援活動にぜひご参画ください。

[問合せ先]

**特定非営利活動法人
静岡県ボランティア協会**

〒420-0856
静岡市葵区駿府町1-70
静岡県総合社会福祉会館内
TEL:054-255-7357
FAX:054-254-5208

期待される成果

- 1 国内の遠隔地や海外で大規模な自然災害がおきた場合、静岡県を中心に募金活動を行い、協定先と協議の上で私たちにできる支援を実施します。
- 2 全国に先駆けて新たな実効性のあるボランティアの支援、支援体制を構築します。
- 3 静岡県の地域防災力向上の取り組みを他国・他地域に紹介することにより、各地の防災力の向上に貢献します。
- 4 懸念される南海トラフ巨大地震の発生時には東海地方から九州まで被害が広がると予想され、遠方からの支援が不可欠となります。このような場合、本ネットワークの体制が支援に大きく寄与できます。
- 5 富士山静岡空港の利活用の促進とともに、同空港に対する国の防災拠点整備が期待できます。



特定非営利活動法人
静岡県ボランティア協会

〒420-0856 静岡市葵区駿府町1-70
静岡県総合社会福祉会館内
TEL:054-255-7357 FAX:054-254-5208
<http://www.chabashira.co.jp/~evolnt/>